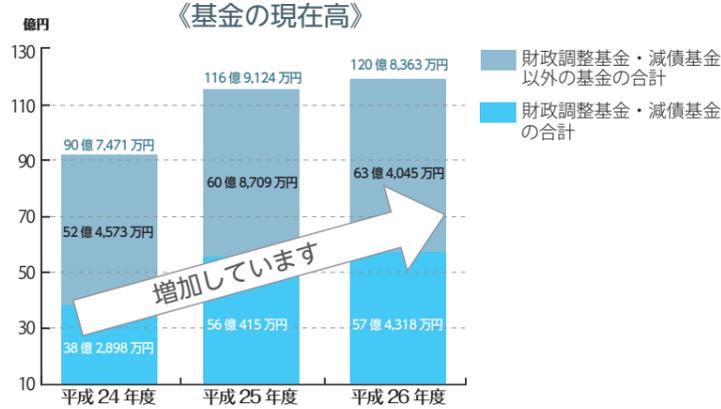


市の貯金は120億8,363万円です！

市の貯金に当たる「基金」は、災害発生等の緊急時の対応や教育・文化の振興、住民福祉の向上などのために積み立てて活用しています。

平成26年度は、将来の支出に備えて財政調整基金と減債基金で1億3,903万円、公共施設等整備基金で8億7,454万円の積み増しなどを行いました。これに、文化・スポーツ振興など特定の目的で積み立てている基金を合わせると、全体で3億9,239万円の増となり、平成26年度末の基金残高は、120億8,363万円となっています。

なお、市民1人当たりに換算すると19万2千円となります。

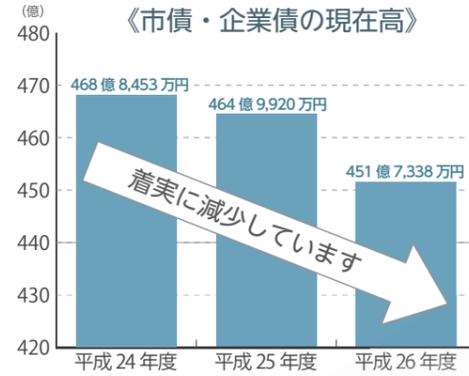


市の借入金は451億7,338万円です！

学校や道路などを建設するには多額の費用が必要なことから、借入金を活用しています。これらの施設は長年にわたり使用するもので、次の世代を含め、使う人みんなが公平に負担してもらうことが借入れをする大きな理由の一つです。

平成26年度末の残高は576億3,649万円ですが、後年度に国から地方交付税で補てんされる臨時財政対策債を除くと実質451億7,338万円です。

なお、市民1人当たりに換算すると71万8千円となります。



計画的な繰り上げ返済を行っています！

合併前の旧4市村では、借入金を有効に活用して道路や下水道、福祉・教育施設などの整備を行ってきましたが、借入金の残高が増え、返済の負担が重くなっていました。

財政健全化のためには、大きくなり過ぎた借入金の残高を減らす必要があります。そこで市では、計画的な借入れと返済を行うとともに、市税や補助

金などの収入確保と事務事業の見直しなどの経費節減に努め、捻出したお金で繰り上げ返済を実施してきました。

繰り上げ返済のメリットは、翌年度以降の利子が節約できることです。利子の節約で捻出した財源は、市民福祉の向上に活用することができます。

今後も将来にわたり安定した行政サービスを市民の皆さんに提供できるよう、健全な財政運営に努めていくワンツ。



市の財政状況を公表します

市の財政について
説明するワンツ

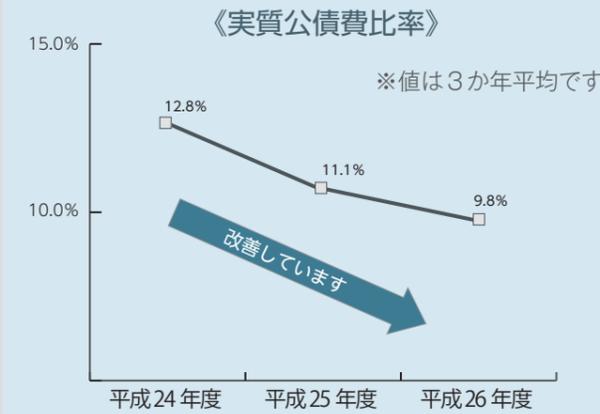


市公認キャラクター「しらがわん」
(だるまバージョン)

皆さんから納めていただいた税金などがどのように使われているのか、また、市の貯金や借入金はどれくらいあるのかなどを知っていただくために、市では、毎年6月と12月に財政状況を公表しています。

今月号では、現在の財政状況と平成26年度決算の概要をお知らせします。

財政状況が改善しています！



国が示す4つの指標（実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率）で、市の財政の健全性を見ているワンツ。

実質公債費比率が大幅に改善！

借入金返済額の割合を示す実質公債費比率は、3か年平均で9.8%となり、前年度と比較して1.3ポイント改善しました。

【健全化判断比率（平成26年度決算）】

指標	内容	白河市	早期健全化基準 (IIO-カード)	財政再生基準 (レッドカード)
実質赤字比率	一般会計※1を主体とした赤字の割合	赤字なし	12.61%	20%
連結実質赤字比率	一般会計、特別会計※2、企業会計※3のすべての会計の赤字の割合	赤字なし	17.61%	30%
実質公債費比率	年間の借金返済額の割合	9.8% (3か年平均)	25%	35%
将来負担比率	将来負担が見込まれる負債の割合	73.4%	350%	

※1 一般会計 教育や福祉、道路整備などを行う行政の基本的な会計

※2 特別会計 国民健康保険や公共下水道事業などを行うために一般会計と区別している会計

※3 企業会計 水道など、民間企業と同様に利用料金などの収益で運営している会計

財政健全化が進み、市の「健全化判断比率」はいずれも国の基準値内となっているワンツ。これからも健全化に取り組んでいくワンツ。



【1人当たり・1世帯当たりの市税の負担と使われたお金】

1人当たりの
市税の負担額 **135,402円**
使われたお金 **683,699円**
(うち除染対策分 187,088円)

1世帯当たりの
市税の負担額 **352,798円**
使われたお金 **1,781,415円**
(うち除染対策分 487,468円)

※平成27年3月31日現在の住民基本台帳人口・世帯数で算出
人口 62,932人
世帯 24,153世帯

《1人当たりに使われたお金の内訳》 ※歳出決算額を行政の目的別に分類し、1人当たりの額を算出したものです。



特別会計

特別会計は、特定の収入で特定の事業を実施するための会計です。一般会計と区別することで、それぞれの事業の収支や運営実績を明確にすることができます。市には、国民健康保険や公共下水道事業など、14の特別会計があります。

区分	歳入	歳出	差引
国有林野払受費	18万3千円	18万3千円	0円
教育財産	168万2千円	168万2千円	0円
小田川財産区	104万1千円	104万1千円	0円
大屋財産区	198万5千円	198万5千円	0円
樋ヶ沢財産区	81万7千円	74万5千円	7万2千円
土地造成事業	2,188万9千円	2,188万9千円	0円
国民健康保険	71億8,319万円	65億4,125万1千円	6億4,193万9千円
後期高齢者医療	5億5,521万8千円	5億4,857万3千円	664万5千円
介護保険	50億3,426万9千円	49億2,182万9千円	1億1,244万円
地方卸売市場	4,323万4千円	2,641万6千円	1,681万8千円
公共下水道事業	21億1,364万8千円	21億473万2千円	891万6千円
農業集落排水事業	7億8,844万円	7億8,844万円	0円
個別排水処理事業	7,131万7千円	7,131万7千円	0円
簡易水道事業	3億3,860万9千円	3億1,213万8千円	2,647万1千円
合計	161億5,552万2千円	153億4,222万1千円	8億1,330万1千円

【水道事業】

区分	歳入	歳出	差引
収益的	11億5,914万1千円	9億9,577万1千円	1億6,337万円
資本的	1億711万4千円	4億9,217万1千円	△3億8,505万7千円

※収支の不足分は、内部留保資金等で補てんします。

【工業用水道事業】

区分	歳入	歳出	差引
収益的	6,840万8千円	6,673万5千円	167万3千円
資本的	0円	3,688万8千円	△3,688万8千円

※収支の不足分は、内部留保資金等で補てんします。

企業会計

企業会計は、地方公共団体が社会公共の利益を目的に経営する地方公営企業の会計です。主に、利用者が支払う料金収入で事業を行っています。

◆市の財政についてもっと知りたい方は、市ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>
《くらしのインデックス → 地域づくり・行政 → 財政》

☎本庁舎財政課 ☎1111 内2332

詳しく見れるワンツ。



平成26年度決算の状況

一般会計

一般会計は、教育や福祉、道路整備など、市の行政運営の基本的な事業を行う会計です。平成26年度の決算は、歳入総額459億5,954万6千円に対し、歳出総額430億2,651万6千円で、差し引き29億3,303万円の「黒字」決算となりました。なお、翌年度に繰り越す事業の財源13億2,112万1千円を差し引いた実質収支額は、16億1,190万9千円でした。これは平成27年度の借入金の返済と貯金の積み立て等に活用します。

歳入総額
459億5,954万6千円
前年度比 4.0%増
(除染対策交付金を除いた額 341億8,762万7千円)

財源の確保が困難な状況の中で、震災復興特別交付税、国・県支出金等を確保することにより、震災からの復興・発展のための事業を推進しました。

歳出総額
430億2,651万6千円
前年度比 3.1%増
(除染対策事業費を除いた額 312億5,270万5千円)

うち除染対策交付金 117億7,191万9千円



※1 地方譲与税・交付金 国や県が徴収した税から一定の割合で配分される交付金

※2 災害復旧費 災害によって生じた被害の復旧など
※3 土木費 道路の舗装や維持補修、河川や公園の維持管理など
※4 その他 農林水産業費、消防費、商工費など